

造山古墳群（第2古墳）発掘調査現地説明会

岡山市教育委員会

日時：平成27年11月22日（日）

場所：岡山市北区新庄下（造山第2古墳）

はじめに

岡山市教育委員会では、造山古墳群の保存事業に伴い、造山第2古墳周辺の発掘調査を進めてきました。このたび調査がほぼ終了したため、みつかった遺構や遺物を公開することとなりました。今回の発掘調査では、第2古墳を廻る周溝の構造や埴輪列の確認を目的として周辺の地点を発掘しました。

造山第2古墳について

造山第2古墳は、造山古墳群と呼ばれる古墳の中の一つです。現地表の観察では墳形は1辺約20m程の方墳です。平成9～10年に、周辺の遊歩道整備に伴って発掘調査が行われ、墓石を伴う周溝と埴輪列が確認されています。築造されたのは5世紀中頃と考えられます。

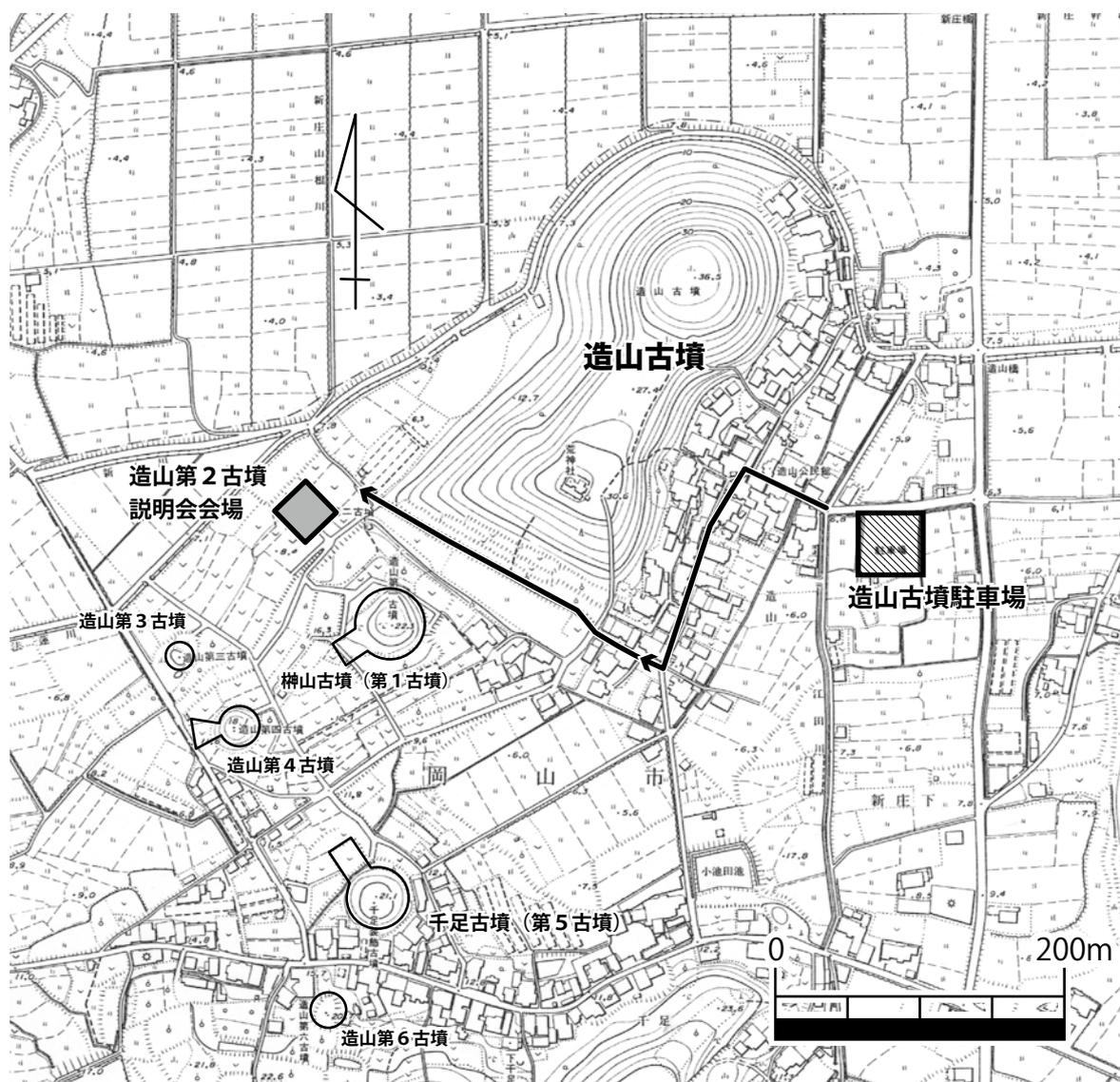


図1 造山古墳群と第2古墳の位置

確認された遺構について

第2古墳の周溝や埴輪列は、平成9年度の発掘調査によって確認されていたものの、南東側の一部分を発掘したのみであり、全容については不明のままです。そのため今回の発掘では、周溝が第2古墳をどのようにめぐるのが、他の地点では遺構がどの程度残っているのか等を調べることを目的に調査区を設定しました。また、第2古墳からやや離れた位置で確認された埴輪列の有無を確認することも目的となります。調査の結果、第2古墳の北東側や北側においても周溝が確認できました。周溝は、地山を掘り下げて作られており、斜面に石が葺かれています。古墳に近い方の葺石の端が第2古墳の墳端となります。この葺石の範囲を追及していけば第2古墳の正確な規模と形態を知ることができます。使用される石材は、地元で採取可能な花崗岩が多くみられます。周溝は上部が削平されており、築造当時の規模は不明です。現状で深さが約1.5m、幅が東側の底で1.5m、北側の底で3mと、場所によって規模が異なります。

今回の調査によって、第2古墳の形が方墳である可能性が高まり、古墳の周囲が現在よりも5m程(1辺が約10m)大きくなることがわかりました。今後さらに調査を進めることができれば、第2古墳の正確な規模や形態を知ることができるでしょう。

このように周溝の確認については成果があった一方、予想された埴輪列は確認できませんでした。今回調査した地点は耕作等によって地面が低くなっており、遺構が削平されている可能性があります。埴輪列の探索は今後の課題です。

各調査区について

トレンチ1

第2古墳の周溝と埴輪列の有無を確認するため発掘しました。調査の結果、耕作土の直下は自然の地層である地山でした。周溝外側を確認できました。葺石の基底石は残っていたものの、それより上は失われていました。葺石を伴う墳端は畦畔の下に埋没しているものと推測されます。埴輪列は確認できませんでした。

トレンチ2

周溝と埴輪列の有無を確認するため発掘しました。調査の結果、周溝を確認し、墳端のコーナー部分を明らかにできました。耕作土の直下で地山が確認されています。葺石は良好に残されていました。期待された埴輪列は確認できませんでした。

トレンチ3

埴輪列の有無を確認するために発掘しました。過去の調査で見つかった埴輪列から直線の位置にあたる箇所のため、期待されましたが埴輪列は確認できませんでした。

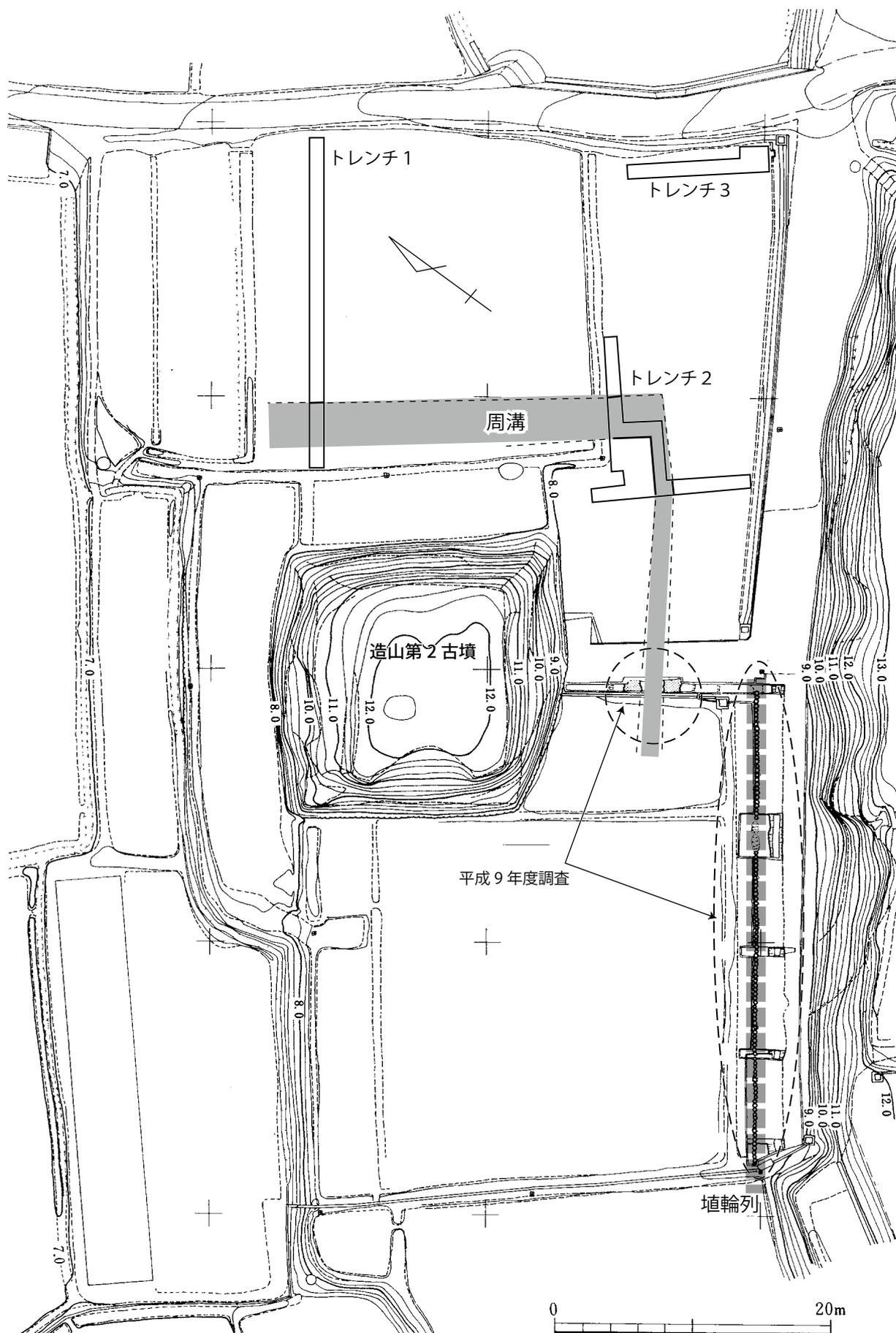


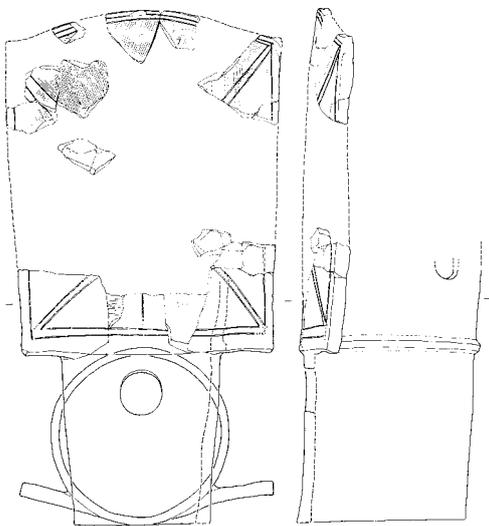
図2 造山第2古墳全体図 (1/400)

出土遺物について

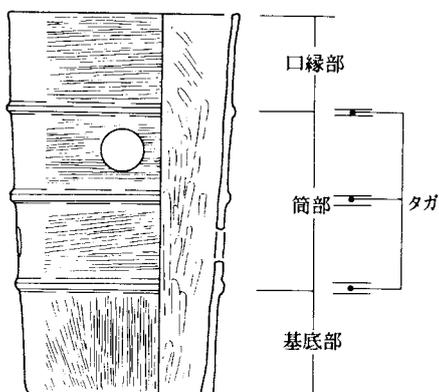
周溝の埋土から埴輪がたくさん出土しました。第2古墳の上に置かれていたものと考えられます。埴輪の種類は円筒埴輪がほとんどですが、朝顔形埴輪・盾形埴輪等がみられます。5世紀中頃のものと思われる。これらの埴輪は第2古墳が築造された時期を知るうえで貴重な手がかりです。

おわりに

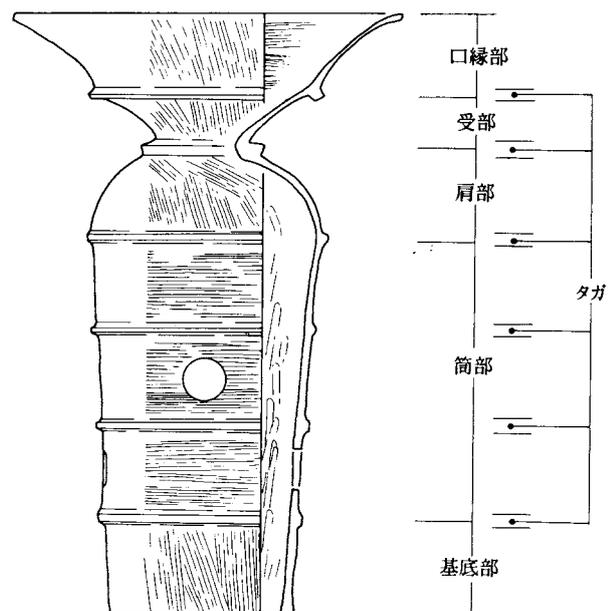
今回の調査によって、第2古墳を廻る周溝の存在が明らかになりました。また、第2古墳の墳端を確認することができました。造山第2古墳の規模が1辺約30mになることがわかりましたこれらの成果は、第2古墳の本来の姿を知るうえで貴重な発見と言えるでしょう。



盾形埴輪



円筒埴輪



朝顔形埴輪